

24時間見守れるから安心

畜産農家専用を開発しました。



愛情見聞録 [畜産シリーズ]  
**養牛カメラ**  
よう ぎゅう

養牛  
カメラの  
特長

- 携帯電話かパソコンがあればいつでもどこでも見守りOK!
- 映像だけでなく音声でも牛舎の様子が確認可能!
- カメラの角度や夜間ライトの点灯などの遠隔操作が可能!
- 大事な場面を見逃しても安心!録画機能搭載。
- 専用保護ボックスで過酷な状況下でも故障知らず!
- 導入後も将来的な発展性を見据えた機能が満載!

株式会社 **ネットカメラ**

〒718-0003 岡山県新見市高尾 2287  
Tel. 0867-78-1050 Fax. 0867-78-1051

URL <http://net-camera.jp> Email: [info@net-camera.jp](mailto:info@net-camera.jp)

# 愛情見聞録シリーズ取材レポート 岡山県版



和牛をはじめ、養豚、養鶏から、環境衛生、先端技術開発まで、繁殖、飼育に留まらない、畜産に関わるあらゆる試験・研究を総合的に行っている「岡山県総合畜産センター」。「愛情見聞録シリーズ」も、誕生からここまで、このセンターで実証研究をサポートしていただきました。

和牛改良部生産技術科の研究員、瀬尾聡一さんも、同センターに入所以来、ずっと「養牛カメラ」と「分娩お知らせセンサー 喜多佳（きたか）」を見守ってくださってきたお一人。そんな瀬尾さんに「愛情見聞録シリーズ」の感想をお聞きました。

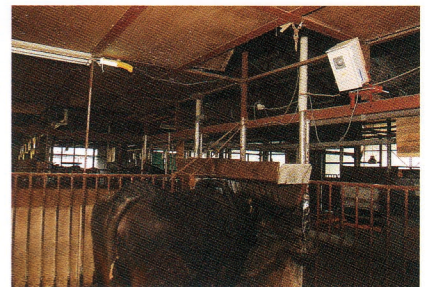


## Q、「養牛カメラ」を使用してみたの感想をお聞かせください。

このセンターで働くようになった時には、すでに「養牛カメラ」が導入されていましたから、最初から違和感なく使っているし、あって当たり前、といった感じでしょうか。特に、私たちのように通いで牛の世話をしている人間にとっては、とても便利なシステムですね。

例えば、養牛カメラが無かった場合を考えると、金曜の夜に出産があった時など、仕事が休みの土日（2日間）の状況が掴めないから、強制的に人工乳を与えてしまう事もありますが、養牛カメラは携帯電話から映像で牛の様子が見られるので、自宅にいても、初乳を飲んだか、飲んでないか、といった確認が出来るので、状況よっての対処が容易なんです。

実際に、養牛カメラのお陰で3回は逆子等、出産時の事故を防げています。他にも出産したばかりなのに、映像を見たら子牛が見あたらないので牛舎に行くと、母牛の下敷きになっていて、慌てて助けた、なんて事もありましたね。とにかく、養牛カメラのお陰で事故率が圧倒的に低くなっています。また、録画機能があるので、私たちのような仕事には、詳しい映像データが採取できるので、そのへんにも優位性を感じています。



## Q、「養牛カメラ」のおすすめポイントを教えてください。

一見、難しそうな感じがしますが、携帯電話からもパソコンからもカメラの操作も簡単だし、どなたでもすぐに使いこなせると思います。農家の方などは、このカメラがあれば、出産時に牛舎から離れられない、なんて事も少なくなると思いますし、自宅と牛舎が離れている農家の方など、それだけでも導入されると便利に感じると思います。

また、映像を見るだけでもある程度の状態が分かるようなベテランになってくると、このシステムと自分の経験などを活かして、さらに細かいケアが出来るんじゃないでしょうか。

価格的には少し高いと感じられる方もおられると思いますが、コストで考えると、子牛一頭分のコストとほぼ同額。もし、このシステムのお陰で出産事故が未然に防げたと考えたら、それだけでも導入すべきだと思います。お産が年50回があるような中大規模の農家になれば、その効果は絶大ですし、月に一回程度のお産がある農家の場合でも導入する価値があると思います。



## Q、これからの「愛情見聞録シリーズ」に寄せる期待は？

「養牛カメラ」だけでなく、「分娩お知らせセンサー 喜多佳（きたか）」を含める「愛情見聞録シリーズ」は、今までの畜産にはなかった、IT技術を積極的に導入したシステムです。こういう画期的なシステムが広まれば、畜産には興味はないけど、IT技術には興味がある、といったような、まったく新しい人材の獲得にも繋がっていくんじゃないでしょうか。また、今後も発展する拡張性を持たせたシステムということで、シリーズ全体がますます便利になっていくことも期待しています。

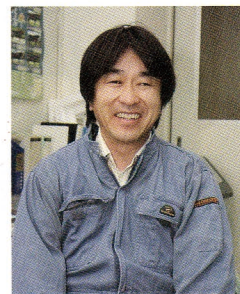
元来、このシステムは、畜産に従事する人間の事を考えて開発されているので、時間的な事など、使用者のライフスタイルの充実などが実現していることが多く、これからも畜産に関わる人間が有意義に暮らすサポートをしてくれる「愛情見聞録シリーズ」であり続けて欲しいですね。

# 愛情見聞録シリーズ取材レポート 島根県版

島根県畜産技術センター



繁殖から飼育まで、あらゆる畜産（肉用牛、乳牛）の試験、研究開発を行う「島根県畜産技術センター」。なかでも、受精卵移植に関する研究開発等、出産を効率的に行うための技術開発を担当する「育種改良部・繁殖技術グループ」では、平成17年度より導入された「養牛カメラ」をさまざまな試験、研究の分野に役立てておられます。今回は、同グループ科長・岡崎尚之さんに、研究の現場で使われている「養牛カメラ」の使用感をお伺いしました。



岡崎さん

## Q、「養牛カメラ」を使用してみたの感想をお聞かせください。

防犯中心だと思っていた「監視カメラ」畜産に導入されたというのが、率直に面白いと感じました。これまでも、牛舎で使用するカメラはありましたが、観察するのに牛舎から離れられなかったりと、あまり便利なものではありませんでした。その点「養牛カメラ」は、LANでの運営はもとより、インターネットで映像や音声といった“情報を飛ばせる”という部分が興味深く、私自身、最初から拒否反応もなくスムーズに使い始めることが出来ました。

使ってみて、一番ありがたいのは“牛に付きっきりでならなくていい”ということです。「養牛カメラ」を導入するまでは、分娩が迫ってきたら、センターに泊まり込んで、牛の状態をきめ細かくチェックしなければならなかったんですが、現在は余程のことがないかぎり帰宅できるようになりました。とくに私の場合は、職場の隣市（松江市）から、約1時間かけて通勤しているので、かなり効率的です。例えば、自宅から携帯電話で牛舎の様子をチェックして、気になることがあれば、近場に住んでいるスタッフに連絡を取ったりと、今では携帯電話からの映像で、ほとんどのことを指示できるようになっています。

カメラの性能に関しては、上を見ればキリがないとは思いますが、充分納得のいく性能だと思います。ここではありませんが、「養牛カメラ」の映像で逆子出産を発見し、無事に出産させることができたなどの事例も聞いています。また、ここでは、乳牛の牛舎に設置しているカメラが設備ごと移動できるようにしてあるので、他の場所にいる体調の悪い牛を観察するために移動させたりと、分娩にとらわれない“広い意味での牛の観察”に使用できるのも便利です。



## Q、これからの「愛情見聞録シリーズ」に寄せる期待は？

私たちが分娩時以外に、体調の悪い牛の様子をチェックするように、「養牛カメラ」の性能を利用すれば、ユーザーそれぞれのアイデア（使用法）に活かせるのではないかと思います。例えば、畜産農家同士の通信（会話）や、獣医師の遠隔地診療などに利用すると、互いが遠く離れていても、言葉に映像を加えた詳細な情報交換が実現するんじゃないでしょうか。

また、島根県内で言えば、隠岐の島のような放牧が盛んな環境こそ、広いエリアを網羅できる「養牛カメラ」の通信能力を活かせるんじゃないでしょうか。すでに、隠岐の島に「養牛カメラ」ユーザーがおられますが、こうした実際に使っている隠岐の方々から、“生きたアイデア”が生まれてくることも期待しています。

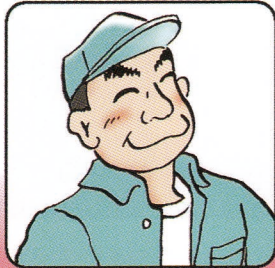
私たちのことと言えば、“地域内ネットワーク”として活用できるのでは、と考えています。畜産や牛に興味のある人々とカメラ映像や情報を共有することで、畜産関係者以外の新しい協力関係が生まれるだろうし、そういう取り組みが、畜産分野の敷居を低くするきっかけにもなり、新しい人材の発掘にも役立つんじゃないでしょうか。

私自身、「養牛カメラ」に始まる「愛情見聞録シリーズ」を難しく“IT”と捉えるのではなく“輪”と捉えているのですが、そうした“輪”がどんどん広がって、分娩などの特殊な場合だけでなく、畜産に関わるさまざまな人々が気軽に利用できるコミュニケーション・ツールになっていくことを期待しています。

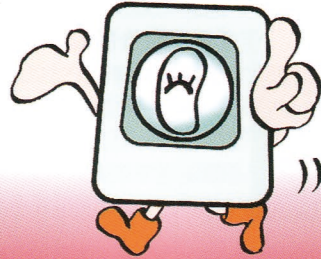


まんがDE

# 養牛カメラ事例日記



今回の事例は：  
熊本県の  
Iさんです。

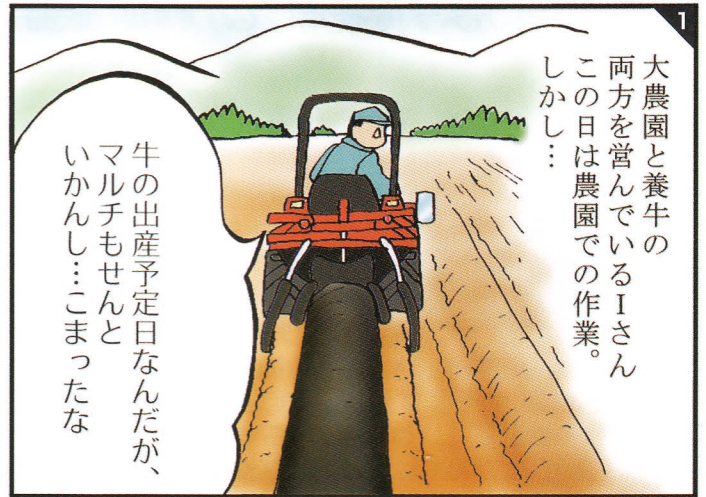


みなさん  
はじめまして！  
ぼくは  
「養牛カメラ」です  
このコーナーでは  
養牛カメラを導入  
された方の  
エピソードを漫画で  
お伝えします。



Iさんの農園と  
牛舎までは約一キロも  
離れているのだ。

牛も心配だけど  
もう少しこっちを  
やっつくか…



大農園と養牛の  
両方を営んでいるIさん  
この日は農園での作業。  
しかし…

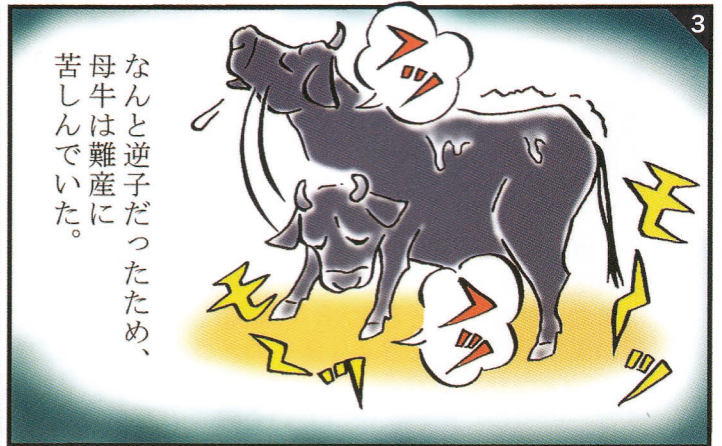
牛の出産予定日なんだが、  
マルチもせんと  
いかんし…こまったな

## しかしその頃牛舎では…

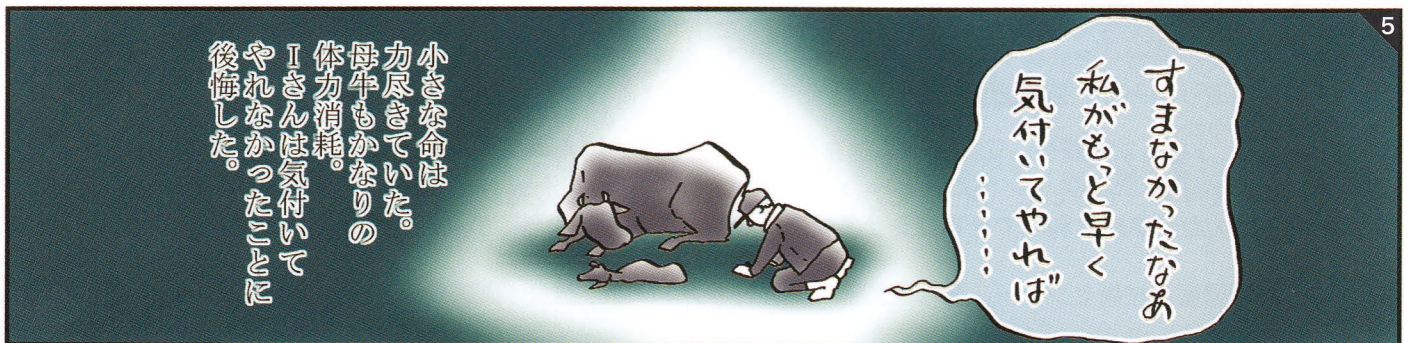


農作業も一段落し、  
急いで駆けつけた  
Iさんだったが…

おおっ  
なんと！  
どうしたんだ



なんと逆子だったため、  
母牛は難産に  
苦しんでいた。



すまなかったなあ  
私ごと早く  
気付いてやれば  
……

小さな命は  
力尽きていた。  
母牛もかなりの  
体力消耗。  
Iさんは気付いて  
やれなかったことに  
後悔した。



後悔ばかりしていてもしょうがない。あの経験を 次に生かさないとい... う...む...

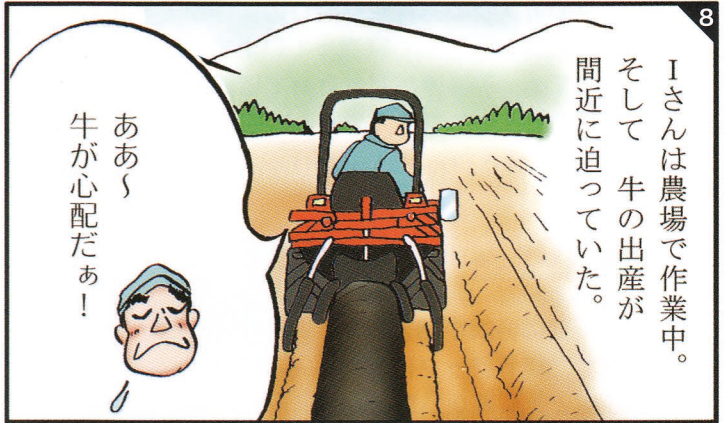


牛の広報誌で見た『養牛カメラ』

そうだっ!



そして 1ヶ月後...



Iさんは農場で作業中。そして 牛の出産が間近に迫っていた。

ああ、牛が心配だあ!



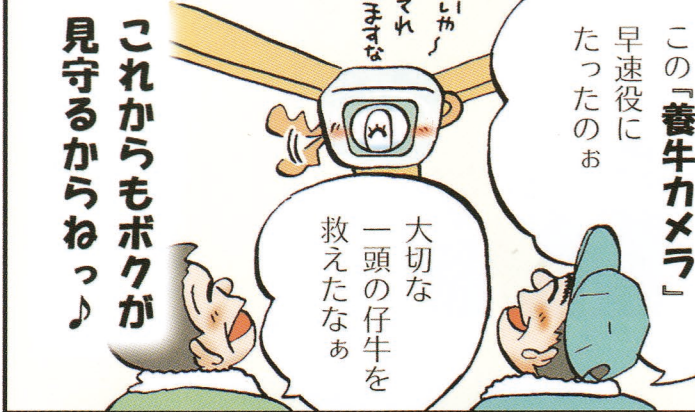
でも大丈夫♪ 今度は畑にいたって分娩房が見られるんだから...



そして無事に出産.....



おっと!こりゃまた逆子かもしれん 獣医に連絡だっ!



これからボクが見守るからねっ!

大切な一頭の仔牛を救えたなあ

この『養牛カメラ』早速役にたったのお



すぐに知らせを受けた獣医と家族は、分娩房に集まり迅速な対応ができた。

# 牧場見聞録

Bokujo Kenbunroku

養牛カメラを実際にお使いのみなさまの声を紹介します。

## ●事故ゼロ目指して親子で協力

鹿児島県薩摩川内市里町  
ミッキー牧場の岸さんご家族

分娩の事故にはどの経営者さんも苦労していると思いますが、以前は年間5～6頭を亡くしていたため、その損失は大きかったですね。

遠報見聞録の導入で分娩の事故が減ったばかりか、出産の兆候から分娩、初乳までを自宅のパソコンで確認でき、牛舎につきっきりだった頃に比べて、本当に助かってます。一番重宝しているのは、パソコンでカメラの向きや照明灯の操作ができる点。そのため発情発見にも役立っています。私達夫婦が外出中でも、子供達がパソコンで確認してくれますから、親子みんなで協力できるのも嬉しいですね。



岸さんご一家

### 牧場データ

所在地：鹿児島県薩摩川内市里町  
飼育頭数：56頭  
面積：23ha  
経営者：岸 広光  
養牛カメラ導入：平成19年11月  
自宅と牛舎の距離：2,200m

## ●70近い両親もラクラク操作で安心見守り

鹿児島県  
山野さんご家族

以前は分娩が始まると、真夜中でも家と牛舎の往復で、軽トラックに泊り込んだこともありました。夜はとても寒かったことを覚えています。

ですが、このシステムを導入してからは、自宅のパソコンで、子牛の足が出てきたことを確認してから牛舎に出かけられるぐらい余裕ができました。以前のような無理をしなくてもいいので、とても楽です。昼間は畑作業をしながら、携帯電話で監視をしています。

操作が非常に簡単なので、70歳近い両親も携帯電

話を片手に、このシステムを愛用しています。家族みんなで見守ることができるようになり、母が一番喜んでます。



山野さんご一家

### 牧場データ

所在地：鹿児島県曽於郡大崎町井保  
飼育頭数：120頭  
面積：165㎡  
経営者：山野 利高  
養牛カメラ導入：平成19年2月  
自宅と牛舎の距離：500m

## ●養牛カメラの安心感で、将来に大きな期待

長崎県壱岐市郷ノ浦町  
野元さんご家族

昨年3月に「養牛カメラ」を導入したので、使いはじめてもう1年になります。このカメラを使っている皆さんが言われる事だと思いますが、やはり実際にお産の事故が減ったことが、一番のメリットだと思います。導入前のように、お産のたびにしょっちゅう夜中に起きて牛舎に駆けつけなくてはならないわずらわしさから解放されますし、自宅のパソコンからいつでも監視できる安心感がよいですね。それにパソコンなら動画で確認できますからとても助かっています。

導入に際して、コストの面などから、初めは迷いましたが、思い切って導入してみて本当に良かったと思います。

「養牛カメラ」を導入した事で、今後の展望もしっかり見えてきました。お産時の事故率の減少という、養牛家にとっての大きな課題を解決できたので、現在44頭いる繁殖牛を将来的には100頭に増

やしたいと思っています。

良い牛を育てるために、心がけている事は、「生後3ヶ月までに、しっかり自分で餌を食べられるようにする事」ですね。そのために、子牛の牛舎には必ず月齢が高い先輩牛と一緒に入れることにしています。そうすることで、子牛は先輩牛が餌を食べるのを見てまねするようになるんです。



野元さんご一家

### 牧場データ

所在地：長崎県壱岐市郷ノ浦町  
飼育頭数：44頭  
面積：約3,500㎡  
経営者：野元 勝博  
養牛カメラ導入：平成20年3月  
自宅と牛舎の距離：約1km

## ●IT導入に農業の今後を期待

島根県津和野町  
京村さん

うちは家族みんなで分担して農業経営をしています。私を中心に、家内は経理を、そして中1から高3までの4人の息子達も積極的に手伝ってくれます。息子達も分娩時は子牛の足を一緒にひっぱってくれたり、出荷の時に親子一緒に行くこともあるんです。「分娩見守りシステム」を導入したことで出産時の監視がとても楽になったし、ITを活用する事で、更に子ども達が農業に興味を持ってくれるのではと期待しています。

今の農業は、後継者不足が大きな問題になっていますから、ITを取り入れることで、肉体的・精神的

にも“キツイ”イメージが解消できるといいですね。若い人や県外者などが興味を持ってくれて、「地域の中で孤立しない農業」「続けられる農業」を進めていきたいです。



京村さん

### 牧場データ

所在地：島根県津和野町  
飼育頭数：170頭  
面積：約5.5ha  
経営者：京村 真光  
養牛カメラ導入：平成18年夏  
自宅と牛舎の距離：約60m

## ●兄弟で力を合わせ繁殖事業拡大に夢

福岡県嘉麻市  
高手さん

和牛の繁殖業を始めて4~5年になりますが、繁殖にとって最も大きな痛手はやはり分娩時の事故ですね。このシステムを導入してからは、ヒヤッとする事も減り、本当に安心です。うちでは弟がパソコン担当、私は出先から確認することが多いので、もっぱら携帯担当です。

分娩時はもちろん、分娩後もこのシステムは役に立っていますよ。分娩が無事済んだとしても、まだまだ注意が必要なんです。というのは、時々育児放棄をする親牛がいるんですね。親牛の育児放棄を見逃すと、結果的に子牛が死ぬ事もある。うちでは分

娩後も、親牛の育児の様子をパソコンや携帯から確認できますから、育児放棄の兆候にもいち早く気付いて難を逃れた事もあります。



高手さん

### 牧場データ

所在地：福岡県嘉麻市  
飼育頭数：500頭  
面積：約5,460㎡  
経営者：(株)高手ファーム  
養牛カメラ導入：平成19年3月  
自宅と牛舎の距離：約8km

## ●カメラ導入の翌日に偶然分娩！さっそく監視に大活躍！

鹿児島県指宿市開聞  
七タさん

1月24日に養牛カメラを導入したところ、偶然にもその翌日に分娩がありました。出産後に子牛が初乳を飲んだことを確認したり、その後の様子を見守るのに、さっそくカメラが大活躍しています。

うちは親子3代で畜産経営をしています。養牛カメラを導入してからは、携帯電話やパソコンでの監視は主に私の仕事になりました。父や祖父は監視の手間が省けて、時間的にも体力的にもとても楽になったと喜んでます。今後は、養牛カメラのようなITの導入を通じて、私のような若い人たちも、もっと農業に興味を持ってほしいと思っています。

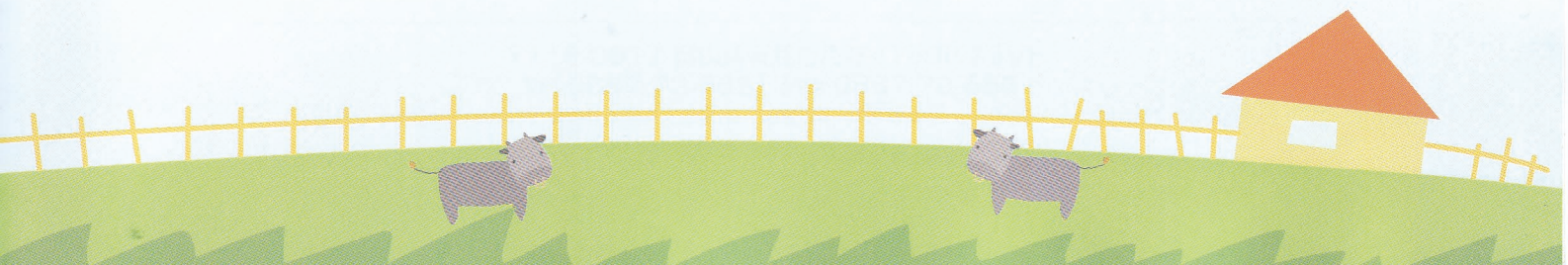
養牛カメラを導入したのは、もともと経営拡大という目標があったからです。飼育頭数を50~60頭に増やせば、今より分娩も頻繁になりますが、この養牛カメラがあれば本当に安心です。



七タさん

### 牧場データ

所在地：鹿児島県指宿市開聞  
飼育頭数：45頭  
面積：800㎡  
経営者：七タ 直樹  
養牛カメラ導入：平成21年1月



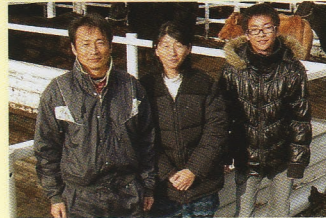
## ●牛も人もストレスフリー 事故ゼロで良い牛づくりに強い味方 熊本県阿蘇郡産山村 阿蘇井牧場 井さん

昨年の12月に、デモのために「養牛カメラ」を設置し、毎日、朝と夜の必ず2回、カメラをチェックしています。

特に異常分娩の時には、カメラがあると心強いですね。先日も、夜、パソコンからカメラをチェックすると、1頭の牛が出産間近だと気がきました。以前なら、すぐに牛舎に駆けつけ一晩中つきっきりでしたが、今は自宅のパソコンから、しばらく様子を見守ってから牛舎に出かけるので、たいへん楽になりました。この時は、子牛の頭がなかなか出ず、危険な状態だったのですが、その兆候をカメラでいち早く察知して対処したので、無事に出産させることができました。

事故やストレスを感じていないか、こまめに観察

することが一番大事です。そのため、自然光はとても大切に考えています。牛舎は日光がたっぷり入るような作りをしていますし、分娩房も、難産の時、牛が歩き回る十分な広さを取っています。このカメラがあればいつでもどこでも観察できますので、良い牛を育てるために、牛と飼い主にストレスを与えないので安心ですね。



井さんご家族

### 牧場データ

所在地：熊本県阿蘇郡産山村  
飼育頭数：54頭  
面積：約300ha  
経営者：井 義光  
自宅と牛舎の距離：1.5km  
無線LANで接続なので通信料無料!!

## ●家内が築いた養牛の土台 親子3人で大きく発展 大分県竹田市大字枝 広瀬さん

私達が本格的に牛の繁殖に乗り出したのは、平成5年のことです。この年、父の病気をきっかけに、家内(文子さん)が仕事を辞め、それまで7頭いた牛の飼育を、父に代わって家内がやるようになりました。もともと会社勤めをしていた家内にとって、自分の収入が途絶えるのは寂しいですから、いわゆる“こづかい稼ぎ”のつもりで「畜舎を建てて牛を増やす」と言い出したんです。すぐに牛を10頭に増やし、10年後には26頭、そして今は58頭になりました。現在、私は以前畜産市場にいた頃の知識を生かし、また子どもたちの頃から牧場を手伝っていた3男も加わり、3人で話し合いながら作業分担をしています。でも、牛の飼育にかけては、やはり家内が大先輩ですね。

良い牛を育てるコツは、病気を寄せ付けないことだと思います。牛の不調にいち早く気づき、しっかり観察して早く病気を治すことです。そして、「一年

一産」のペースを守るには、出産後30~80日以内に種付けを行うことです。通常、種付けから285日前後で出産しますから、出産から次の種付けまでをきちんと日数管理する事で、繁殖の効率が良くなります。また、思うように発情しない時は餌の栄養バランスを改善すると効果があります。とにかく、日々細かく牛を観察する事を第一に考えていますから、うちでは養牛カメラが非常に役立っています。



広瀬さんご家族

### 牧場データ

所在地：大分県竹田市大字枝  
飼育頭数：58頭  
面積：2500㎡  
経営者：広瀬 文子  
養牛カメラ導入：平成20年3月  
自宅と牛舎の距離：100m

